

寫

2384

普通第三八五號

昭和九年八月十一日

外務大臣廣田弘毅殿

昭和九年八月十一日附在滿大使宛
普通第三七二號寫送付

件名

一蒙古奴隸問題參考資料送付ノ件

在鄭家屯

領事代理石塚邦器

外務省

S 1.6.1.2-13

420

2384

普通第三七二號

昭和九年八月十一日

在滿洲國

特命全權大使菱刈隆殿

蒙古奴隸問題參考資料送付ノ件

在鄭家屯

領事代理石塚邦器

最近蒙古奴隸解放問題喧傳セラレツツアル折柄興安西分省總務科長
薩嘎拉札布氏ハ本件ニ對スル輿論ト一般ノ認識ヲ喚起スヘク「蒙古
奴隸問題」ト題スル別冊邦譯文ノ如キ意見書ヲ發表セルカ其内容見
ルヘキモノアリ本問題檢討上好箇ノ資料ト認メラルルニ付御參考迄
右送付申進ス

本信寫送付先 外務大臣 赤峰 齊々哈爾 海拉爾

外務省

S 1.6.1.2-13

421

REEL No. A-0739

0259

アジア歴史資料センター

2384

第一	緒言	蒙古奴隸問題	目次
第二	奴隸ノ解放		
第三	奴隸ノ權利義務		
第四	奴隸ノ主人トノ關係		
第五	奴隸制度ト蒙古民族		
第六	奴隸解放機運ノ醞釀及運動		
第七	解放ノ議論及方法		

外務省

9. 5
S 1.6.1.2-13

423

は(1)

Page 102.

2384

蒙古奴隸問題

外務省

9. 5
S 1.6.1.2-13

422

は(1)

REEL No. A-0739

0260

アジア歴史資料センター

第一 緒言

洋ノ東西ヲ問ハス種族ノ如何ヲ論セス世界人類ハ等シク進化ノ道程ヲ辿ルモノテアル、而シテ其過程ニ於テ或ハ急速ナル進歩ヲ遂ケ或ハ遅々トシテ進マサルモノ等ヲ生スルノハ主トシテ其環境ノ情勢ノ如何ニ依ルコトカ多イ

人類ハ酋長時代ニ於テハ交通ノ發達セサル爲相互ノ連絡ハ山河ノ爲ニ遮斷セラレ自然ノ環境ニ因熄シテ族ヲ以テ相聚リ幾多ノ部落ヲ形成シテ原始國家ノ形態自ラ發生シ其生活ノ爲ニハ幼稚ナ農業ト牧畜トヲ經營シタノテアル

而シテ彼等ハ農地牧場ノ需要關係ニ因シテ隣接部落ト絶エサル争鬭ヲ繰リ返シ常ニ農地牧場ノ擴大ニ専念シタノテアルカ此ノ争鬭ノ結果征服民族ハ被征服民族ヨリ得タル俘虜ヲシテ勞役ニ服セシメタノカ即チ奴隸ノ濫觴テアル

此ノ俘虜勞役者カ時ノ經過ニ從ヘ其ノ數ノ増加ト共ニ一ツノ固定的

階級タルノ觀ヲ呈スルニ至ツタノカ即チ世ニ言フ奴隸テアル

奴隸所有者ハ奴隸ニ對シテ生殺與奪ノ權ヲ有シ思ノ儘ニ之ヲ驅使スルコト牛馬ト異ナル處ハナイノテアル

人謂フ「奴隸ハ家畜ナリ」ト以テ其暗陰裡ノ苦痛ノ如何ニ甚シキモノナルカ蓋シ思ヒ半ニ過クルモノカアロ

「物極ニ達シタル時ハ必ス反ス」ハ必然ノ理テアル壓迫大ナルニ從ツテ抵抗モ亦大ナルハ當然テアル世移リ人智ノ漸ク啓クルト共ニ彼等モ其ノ苦痛ノ過大ナルヲ痛感シ同人相續シテ抵抗セントスルモノヲ生シ憶測ノ情ニ發シテ正義人道ヲ唱ヒ之カ解放ヲ強調スル者モ次第ニ増加シ來ルハ自然ノ數テアル

如斯ニシテ前者仆ルレハ後者起チ遂ニ能ク其ノ目的ヲ達スルニ至ルノ經過ハ史上隨所ニ發見シ得ル處テ人數社會轉換期ニ於ケル普遍現象テアリ亦進化途上必然ノ一段階テアル

二十世紀モ已ニ半ハナラントスル今日世界ヲ通觀シテ今尙奴隸ノ存

在スルノハ唯蒙古民族アルノミテアルコノコトハ單ニ後進蒙古民族ノ恥辱テアルノミテナク實ニ世界人類ノ汚點テアルト言ハナケレハナラヌ
惟フニ蒙古ニ今尙奴隸ノ現存スルコトハ冒頭ニ述ヘタ人類ノ進化ヲ環境ノ支配スル一例テアツテ實ニ蒙古ノ特殊事情ノ然ラシム處テアリ其ノ内容ハ複雑ヲ極メ片言斐語ノ能ク説明シ得ル處テハナイ然レトモ此ノ問題ヲ論スルニ當ツテ吾人ハ其内容ニ立チ入ツテ奴隸ノ種類、主人トノ關係等ヲ分析シ尙溯ツテ解放運動ノ醞釀セラレタル真相ヲ究メテコソ始メテ蒙古奴隸問題ニ對スル精確ナル認識ヲ把握シ之ニ依ツテ解放ノ方途ヲモ發見シ得ルノテアル

外務省

第二 奴隸ノ解剖

蒙古ノ社會層ハ大体ニ於テ貴族ト奴隸トノ二階級ヨリナツテ居ルト言ツテヨイケレドモ一步突込ンテ見ルト其内容極メテ複雑デアル之ヲ例示スレハ

甲 貴族

貴族ハ蒙古ノ上層階級テアツテ一般貴族ト特別貴族トノ二種ニ別タレル
一 一般貴族トハ王、公、貝、貝子等之ニシテ尊爵位ノ世襲權ヲ有シ各等ノ塔、囊、台、吉、之ニ屬スル此等貴族ハ皆博爾濟特、烏梁海ノ兩系統ヨリ出テタルモノデアツテ之即真正ノ貴族テアル
二 特殊貴族トハ奴隸支配權ヲ享有スルモノデアツテ各寺廟ノ喇嘛ハ之ニ屬シ一定ノ系統ヲ有スルニ非ス又其ノ地位モ一般貴族ヨリ低イノテアル

外務省

注記

イ、貴族ハ平民奴隸ノ一種或ハ數種ヲ持チ得ルモ必スシモ數種ヲ併セ有スルモノテハナイ

ロ、特種貴族ハ庙徒或ハ莊丁ノ一種又ハ二種ヲ持チ得ルモ他ノ各種ノ奴隸ヲ持ツコトハ出來ナイ

ハ、一般貴族、特別貴族等ハ何レモ莊丁奴隸ヲ持ツテ居ルカ然シ一莊丁奴隸カ同時ニ各種貴族ノ共有物タルコトハナイノデアアル

ニ、平民ハ家奴ヲ持ツコトカ出來ルカ一家奴カ數個ノ平民ニ分屬スルコトハナイノデアアル

外務省

9. 5

1.6.1.2-13

429

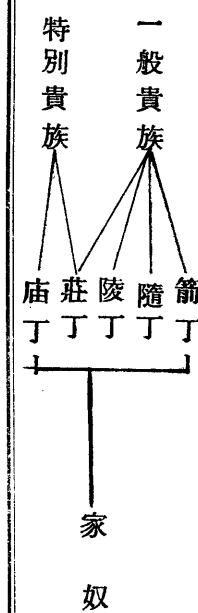
乙 奴隸

蒙古社會ノ事實上ノ基礎階級テアルカ同時ニ下層階級テモアル其ノ層系ハ甚タ廣汎ニシテ人口モ最多數ヲ占メテ居ルカ平民ト家奴トノ二種ニ分レテ居ル

平民ハ箭丁、隨丁、莊丁、庙徒等ノ別アリ貴族ニ隸屬スルニ家奴

階級別

貴族—平民—家奴



外務省

9. 5

1.6.1.2-13

428

家	廟	莊	陵
奴	徒	丁	丁
ルテ任絶種平民 全他人ニシノ クニ之服テ所 ノ提ヲ從所 物供買シ持 品ス賣且主 テアル又其 コハノ無 ト擔所有 ノ保件 出ト主 來シハ テ一	ニ額所 服ノ屬 ス税金 ヲ或 納ハ メ廟 且ニ 一般對 ノシ 差一定 役	ノ族シ所 義ノ各屬 務代リ種 モ負ト差 フシ役 モノニ デ外服 アル一 般且 差所 役屬 貴入	其修定其所 メ上繕ノ屬 ラニ等祭專 レ別役金任 ル種ニヲス コ一服納陵 ト般スメ處 モ差ル且テ アル役ノ墓 ニ服テノ セアルア看 守一
レニ婚ノ族社 ナイ口ハミ平會 出絶テ民的地 シ對ナトハ位 スニクハ平ニ ル禁貴族等 コ止族ニ トサ、平 ハレ民政 勿治ト 論行ノ 許行政 サ政結	コ得ノ併 トルカ教 カ此ヲ 出テ奉 來下廟 ル級徒 行ノ 政資 官格 吏ヲ ニ取 ナ得 ルシ	同	ノ級ク社 ミ官只會 デア吏陵 アルニ墓 ナル管理 ノ權人 利又ハ ヲ其 有他 スノ 下低

S 1.6.1.2-13

431

外務省

隨	箭	奴	之	利	ハ	全	第
丁	丁	隷	ヲ	通	義	般	三
ツニシム金ニ專 テ對メラヲシラ貴 負シラ納テ族 フテ負ム所屬 モノフ且ニ各 デア切屬種 ル義族差 務旗役 ヲ公ニ 代署セ	ノ所有主ノ代 義税金ヲ納リ 務ヲ負フスル ヲ入スル義 ヲスル義務 及兵役	義務	便ナル如ク圖示スレハ	之ヲ通覽ニ	ハ義務モ有スルカ權利モアル家奴ハ然ラス唯義務ノミ重クシテ權	全般ニ奴隷ノ權利義務ハ其種類如何ニ依ツテ異ツテ居ル平民奴隷	第三 奴隷ノ權利義務
同	同	權	利	權	利	權	權
右	右	利	利	利	利	利	利

S 1.6.1.2-13

430

外務省

附注

- 1、平民カ主人ヨリ要求セラレタル税金ヲ納メ得ナイ場合ハ家奴ノ如ク無條件テ服役セシメラレルノデ箭、隨丁ノ二者ヲ除ク外ハ家奴ト同シク轉賣讓渡シ又ハ擔保物件トスルコトカ出來ルノデアアル
- 2、貴族カ其娘ヲ嫁ニヤル時奴隸ノ女ハ附添人トシテ一所ニ送ラレ終身此勞役ニ服スルノテ平民ノ家奴ニ對スル亦同シデア
- 3、現在テハ平民モ旗長ニナル資格ヲ認メラレタ譯テアルカ家奴ノ税金代リノ服役ハ未タ至ル處ニ根強ク殘ツテ居ル事實デアアル

外務省

S 1.6.1.2-13

432

第四 奴隸ト主人トノ關係

以上述ヘタ處ニ依ツテ奴隸ノ社會的地位及其ノ貢フ義務ノ如何ニ殘酷ナモノテアルカハ或程度ニ明ニナツタツモリテアルカ更ニ一歩進ンデ其實情ヲ探究スレハ主人ト奴隸トノ關係ハ實ニ一般人ノ想像タモ及ハサル寧ロ不可思議ナル存在タルコトニ人々ハ驚異ノ眼ヲ見張ルテアロウ

蒙古ニハ今迄正確ナル人口統計ハナイケレトモ奴隸ハ蒙古人口ノ八割ヲ占メ貴族ハ僅カニ割ニ過キス即チ奴隸ハ絶對多數ヲ占ムル階級テアツテ貴族ハ極少數ニ過キナイノテアル如斯階級別人口ノ比例ノミテモ一ツノ驚異タルヲ失ハナイテアロウ

貴族ノ祖先カ史上ニ殘シタ偉功大業世界ヲ震撼セシメタル英雄モナカツタノテハナイカ其子孫ノ多クハ唯安逸ヲ求メ奢侈ニ耽リ久シキニ亘ツテ遊惰ノ風ニ染ミタル結果彼等ハ唯物ヲ消費スルコトヲ知ツテ生産スルコトヲ考ヘス遂ニ一種ノ寄生階級タルニ至ツタ

外務省

S 1.6.1.2-13

433

ノデアル

貴族ニシテ恒産ヲ有スルモノハ其恒産ヨリ生スル利得ト奴隷ヨリ徵收スル税金トニ依ツテ裕福ナル生活ヲ維持スルノテアルカ恒産ナキ貴族ハ何等カノ生産事業ニ従事スルニモ技術ナク能力ナク加フルニ彼等ハ到底労働ニ堪ユルノ質ヲ有シナイノテアル茲ニ於テ彼等ハ専ラ奴隷ノ納入スル税金ニ頼リ或ハ奴隷ヲ他ニ轉賣譲渡スルコトニ依ツテ其生活ヲ維持スルノテアル殊ニ家奴ヲ擔保ニ當テル風ハ最盛ニ行ハルルノテアル從ツテ奴隷ハ境遇ノ逼迫ト生活ノ困窮トニ身ヲ縛ラレテ如何ニ苛酷ナル勞役ニモ従事セサルヲ得ナイコトトナルノテアル而シテ彼等ハ相當ノ生活能力ヲ有スルヲ以テ貴族ノ消費ノミヲ知ツテ生産ヲ知ラサルモノヲ養ヒツツ自ラモ亦生キテ居ルノテアル此貴族ト此奴隷ノ關係ヲ直視スレハ生キ行ク人間トシテノ價值ハ實ニ天地霄壤ノ差カアル如斯現象カ今日此世ニ存スルト云フコトハ驚異テナクテ何テアロウ

外務省

再言スレハ人口ニ於テ最大多數ヲ占メ而モ生産能力ヲ有スル奴隷カ無條件ニ彼等ノ寄生階級タル主人ノ貴族ノヲ扶養スルモノデア
ル
此ノ關係ヲ誤ツテハ不可ナイ主人ハ奴隷アルカ故ニ生キ得テ居ルノタト言フ實相ヲ吾人ハ明確ニ認識セナケレハナラナイノデア

外務省

第五 奴隸制度ト蒙古民族

奴隸ハ實ニ蒙古民族存續ノ骨幹テアリ主要生産者テアル唯其ノ生産方法ニ於テ世ノ進運ニ取殘サレタルカ爲ニ勞シテ得ル處カ極メテ少ク僅ニ其家畜ニモ似タル生存ヲ續ケテ剩ス處幾何モナイ然ニ主人ニ對シテハ年毎ニ其ノ消費ノ資ヲ納メネハナラヌ曩中額ケ盡シテ資力全ク盡キ破産狀態ニ陷レル者モ亦尠ナクナイ

衆奴ハ固ヨリ平民奴隸ニシテ其主人ト共同生活ヲ營ムモノハ其所得ノ全部ヲ主人ニ攫取サレテ了イ飢寒ニ迫ラレ死ニ瀕シテ居ルモノハ至ル處ニアル如斯狀態ニアツテ蒙古唯一ノ生産者タル奴隸ハ永久ニ困窮ノ底ニ盡キ如何手段ノ發達ヲ希望シテモ之ヲ實現スルコノ餘裕ハナイ之即蒙古カ現状ニ於テハ經濟的發展ノ望ミ難キ所テアル然レトモ奴隸ハ全人口ノ絕對多數ヲ占ムルモノ丈アツテ個人トシテノ素質優良者ハ貴族ニ比シテ遙ニ多イノテアル

且近來政治的ニ眼覺メ各般ノ方面ニ向ツテ萬弊ノ改善ヲ圖ラムトス

外務省

S 1.6.1.2-13

436

ル者モ少クナイカ遺憾ナカラ政治的實權ハ今尙貴族ノ掌中ニアリ奴隸ハ社會的地位ノ關係カラ政治ニ參與スルコトハ不可能ナノテアル而シテ政治ノ實權ヲ握レル貴族ハ悉ク因循姑息舊來ノ習ヲ固持スル以外ニ餘念ナク政治ノ改進各種産業ノ發達等ハ彼等全ク夢想タモセサル所テアル一方能力優秀ニシテ政治的思想ヲ有スル奴隸ハ哀ニモ唯放擲セラレ居ル許リテナイ動々モスレハ理由モナク投獄セラレ甚シキニ至ツテハ其生命迄モ侵害サルノテアル

過去ノ蒙古ノ政治ナルモノカ如何ニ暗黒ナモノテアツタカ又此儘社會制度ヲ持續シタナラハ其將來如何ニナルカ等シク文化ヲ向上シテ人類ノ福祉増進ニ貢獻スヘキ一民族而モ過去ニ於テ光輝燦タル歴史ヲ有スル蒙古民族ハ此ノ奴隸制度ナル暗黒面ヲ有スルカ爲ニ凡テノ進歩ハ凡テ阻止セラレ今ヤ將ニ世界ノ落伍者タラントシテ居ルノテアル

外務省

S 1.6.1.2-13

437

第六、奴隸解放機運ノ醗酵ト其運動

奴隸制度ノ真相ニ就テハ上述ノ如クテアルカ近來平民中ニ社會的ニ覺醒セル者輩出シ此ノ制度ノ非道ナルヲ叫ビ之カ解放ノ急ヲ強調スルニ及ヒ一般奴隸モ漸ク自己ノ不合理ナルニ氣附キ今日ニ於テハ遂ニ其所有主ノ任意ノ轉賣讓渡擔保ニ供セラルルヲ拒絕スルコトニ依ツテ消極的ニ抵抗ノ態度ヲ表示シ一方種々ノ請願或ハ解放ノ運動ヲ行フ等積極的態度ニ出ル者モ日々増加シツツアル此ノ結果トシテ蒙古貴族ノ部分的讓歩ヲ獲得スルト共ニ中國政治家ヲシテ全部的解放ノ決議ヲナサシムルニ至ツタノテアル今其ノ概要ヲ摘記スル

一、蒙古貴族ノ讓歩

往年民國一、二年内蒙歸服ノ際哲里木盟長（現興安總署長官）ハ前後數回ニ亘ツテ各旗王公ヲ會シ一切ノ政治問題ヲ討議シタカ當然奴隸階級ノ解放運動ノ熱烈ナルニ鑑ミ其其勢力ノ押ヘ得サルヲ察シ始メテ奴隸ノ女子ヲ他ニ嫁スル貴族ノ娘ニ隨從スルコト一

外務省

S 1.6.1.2-13

438

二、中國政府ノ解散

俗ニ陪房ト言フヲ金錢的條件ニ置キ換ヘルコトニ依ツテ讓歩ノ意思表示ナリトシ一時運動ノ緩和ヲ計ツタノテアル

民國十九年南京政府蒙業委員會ハ蒙古各盟旗王公及民衆代表ヲ召集シテ蒙古會議ヲ開催シタル際委員側ヨリ各方面ノ解散請願ヲ慰據トシテ作成シタル全部的解放案ヲ提出シ全大會ニ於テ異論ナク可決通過シ特ニ解放命令ノ發布セラレントスル秋九月十八日事件突發シ遂ニ此ノ解放案モ其ノ儘立チ消エトナツタノテアル以上ハ滿洲國迄ノ解放運動ノ經過テアル次ニ滿洲國以後ノ狀況ヲ述フレハ大同二年十月興安總署ニ於ケル各分省地方科長會議ニ於テ興安總署商工科ノ提出セル奴隸案ハ全部的解放ヲ原則トシテ一致可決セラレタノテアル

唯奴隸ノ現狀ヲ明瞭ニシ解放ノ順序方法ニ就キ研究スルノ見地ヨリ其實狀ノ調査報告ヲ南西兩分省ニ依囑シ以テ研究資料トナ

外務省

S 1.6.1.2-13

439

スコトナツタノテ今尙具体案ニ着手シテ居ラナイノテアル
以上カ今日迄ニ於ケル奴隸解放運動ノ經過テアル

外務省

1.6.1.2-13

440

第ニ解放ノ議論及方法

一 滿洲國ハ建國ト共ニ王道政治ヲ標榜シテ汎ク世人ノ景仰ヲ受ケツ
ツアリ王道ハ民ヲ以テ貴シトナス、王道沿下ノ滿洲國基本ノ民族
ノ一タル蒙古民族ノ大衆カ奴隸制度ニ束縛セラレテ畜類ノ如キ境
遇ニアリテ凡ユル權利ヲ蹂躪セラレ其思想的、經濟的發展ヲ期ス
ルコト能ハス政治ノ改善、文化ノ宣揚共ニ不可能ナルカ如キハ王
道ヲ標榜スル滿洲國ノ決シテ容認スル能ハサル處ナリ之カ解放論
ノ第一テアル

ニ 軍閥統治ノ南京政府サヘ奴隸ノ全部の解放ヲ議決セリ況ヤ王道滿
洲國ニ於テヤ

又直ニ之カ實質の解放ニ着手スレハ蒙古族ノ絶對多數ヲ占ムル此
階級ハ即蒙古民族ノ絶對多數ハ求メスシテ滿洲國ヲ景仰シ扶翼ス
ルニ至ルヤ必セリ之カ解放論ノ第二テアル
乍然吾人ハ今更此ノ奴隸解放ノ要否ニ就テ云々スル必要ヲ認メナ

外務省

1.6.1.2-13

441

イノテアル苟モ靈性ヲ有スル人間テアル限り如斯非道殘酷ナル現象ハ如何ナル障害ヲモ排除シテ一日モ早く全面的解放ヲ期セネハナラヌト言フコトハ萬人共通ノ信念テアロウ興安總署ノ地方科長會議ニ於テ一致可決サレタルモ固ヨリ其ノ處デアル唯解放ノ方法ニ就テハ議論紛糾シタカ之ヲ凡ソ次ノ三論ニ大別スルコトカ出來ル

1 法令解放論

此ノ論者ハ現状ノ持續セラルル原因ハ少數貴族ノ專制ニアリトシ法令ヲ以テ強制解放セハ可ナリトスルモノテアル

2 自由的解放論

此ノ主張ヲ持スル人ニハ奴隸制度ノ現存スルコトカ已ニ蒙古民族ノ恥辱テアル更ニ之ヲ法令ヲ以テ解放セシムルカ如キハ恥ノ上塗ナリ宜敷奴隸所有者ヲ漸次説得シ以テ自發的ニ解放セシメテコソ民族ノ体面ヲ保持スル所以デアルト言フノテアル

外務省

S 1.6.1.2-13

442

3 折衷論

全般ニ自主的解放ノミニ期待スルハ從來ノ經驗ヨリ見ルモ困難ナリ先ツ一定ノ期間ヲ示シテ自主的解放ヲ獎勵シ補助シ尙且之ニ應セサル者ハ法令ヲ以テ強制スヘシト云フノテアル

要スルニ何レモ解放ノ手續上ノ問題ニ過スシテ之等ハ當局ノ裁量ニ委シテ可ナリト信スル唯吾人ハ茲ニ解放ノ實質如何ニ就キテ二三愚見ヲ述ヘムトスルモノデアアル

1、解放ノ其日ヨリ平民家奴ノ別ナク舊所屬主トノ權利義務關係ハ完全ニ解消スルコト

2、解放ノ其日ヨリ貴族奴隸ノ別ハ法律ノ前ニ解消スルコト

3、解放ノ日ヨリ平民或ハ家奴ノ從前ヨリノ所有スル私有財産ハ凡テ從來ノ主人ヨリノ侵害ヲ受クルコトナク各々平民衆奴ノ財産トシテ完全ナル所有權ヲ認メルコト

4、家奴或ハ之ト同等ノ平民ニシテ主人ト同居ノモノノ赤貧ナル

外務省

S 1.6.1.2-13

443

時ハ其資産ヨリ生活維持ニ要スル費用ヲ幾代ニ亘ル納税勞役ノ報酬トシテ給與スルコト

五十歳以上及十五歳未満ノ家奴及之ト同等ノ平民ニシテ其主人ト同居ノ者ニ對シテモ亦如斯スルコト

5、中央ニ於テハ臨時専門委員會ノ如キモノヲ組織シテ指導監督ニ任セシメ以テ解放ヲ促進スルコト

以上ノ如ク處理シテコソ始メテ蒙古ノ奴隸ハ直ニ解放セラレ王道ノ惠澤ニ浴シ得ルノテアル

吾人ハ此ノ解放ノ實現即人類ノ一汚辱ノ跡ヲモ留メス拂拭シ去ラルル日ノ一日モ速カナランコトヲ熱望スルモノデアル

終

外
務
省